

磐城時報

石城郡平町編輯部
印刷部 印刷人 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
電話 一四四
代金 一月一元二角 三月三元五角 半年六元五角 一年十二元
廣告料 一行一文字一日五銭
印刷部 印刷人 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
電話 一四四
代金 一月一元二角 三月三元五角 半年六元五角 一年十二元
廣告料 一行一文字一日五銭

一萬四千余圓を増したが

目新らしいもの更になし

増加の筆頭は役場費

明年度豫算に町民失望

平町では二十五日午前十時から十七日増加し全部で一萬二千六百六十六圓を昭和八年度豫算を附七百七十二圓を増し、四萬四千三百三十三圓を昭和八年度豫算を附七百七十二圓を増したのが増額の筆頭に示した分に第三校敷地擴張費、之につき小学校費三千九百九十九圓、第四小学校敷地買収手付百四十八圓、商業學校費二千六百六十六圓、職工費百六十七圓、職業紹介所費四百九十九圓、内經常部二十七萬六千六百六十六圓、増加してゐる外は千九百六十六圓、臨時部五萬八千八百八十八圓、警備費千七百七十五圓の減額千二百五十二圓、即ち総額に始め、トラホーム豫防費、傳染病豫防費、汚物於て前年度より一萬四千四百四十圓減額、傳染病豫防費、汚物八圓の増加を示してゐるが、之掃除費等すべてを減額してゐるに反し、新規事業全く臨時部に於ては第三校増築費一萬五千五百十六圓、警備費二千六百六十六圓、役場費は水道部を合するに青沼新町長は只管事なけれ併したといふ事を表面の理由と主義をとり人氣を落さぬやうにし吏員給料を一萬一千四百七十圓心した跡は見られるけれども五圓増加した外維持費を三百八十圓、一般町民の期待はこゝに全く裏切五圓増、町内出張手當を七百八八圓減らした感がある。

町税はそのまゝにして

水道料金を値上げ

人氣を落さぬやう努力した

豫算編成に苦心の跡

平町明年度豫算が前記の如く總額に於て一萬四千余圓の増加を

であつたのを本年は僅かに八千圓に止め一萬餘圓を浮かして辻を合せやうと努力したが、これでも収入に不足を免れるので町民一般の水道使用料金共(用栓以外)の値上げを断行し五千六百八十三圓の新財源を得て苦心の豫算編成を終えたものであ

飯野村豫算

二萬一千圓

飯野村では二十七日村會を開き昭和八年度豫算を協議するが、公會堂建築積立金一萬圓を削減し昭和八年度豫算を協議するが、町有財産の一部を一萬五千圓で前年と大差な八百二十六圓で賣却する事として新事業として上高久、上荒川に小学校基本財産から一萬八千圓の村有林二十町歩に植林を行ふ千圓を流用し前年まで二萬圓弱事になつた。

村長以下全村議

有罪として送検

小川村の不正事件

取調べ一段落を告ぐ

飯野小川村大字上小川の巨救事件に反し、新規事業全く臨時部に於ては第三校増築費一萬五千五百十六圓、警備費二千六百六十六圓、役場費は水道部を合するに青沼新町長は只管事なけれ併したといふ事を表面の理由と主義をとり人氣を落さぬやうにし吏員給料を一萬一千四百七十圓心した跡は見られるけれども五圓増加した外維持費を三百八十圓、一般町民の期待はこゝに全く裏切五圓増、町内出張手當を七百八八圓減らした感がある。

千名の幽霊、夫を造るための傳票を發行せしめるため収入役から五百圓を引出し尙實弟の田久小次郎から借用して人夫賃に立替へたと稱し白井村長から小口の名宛に五百圓の借用證書を取つた外更に二を駒木根村長より縣に申請した縣では三月中山林課より保官を派遣して指導することになつた

關係町村長出福し

縣に調停を依頼

教育費寄附問題

既炭炭礦の鑛産税が昭和八年度移譲を理由に寄附を拒絶する旨から半額だけ所在町村に移譲さ町村當局に通知したので町村でれる事となるので石城郡では内は前後策を講究中であつたが、郷村の二萬五千圓を筆頭に町村二十四日午前一時十八分平驛發收入となる額は約五萬圓に達す列車で關係町村長勿來町赤津庄るわけであるが、各炭礦は從來兵衛、湯本町石川徳壽、警備村從業員の子弟が教育をうけてゐる長代理酒井賢吾、内郷村長沼田の關係で磐城炭礦は一ヶ年に一演之助、赤井村長松本金次各萬二千圓、入山炭礦は八千圓を氏が相携えて出縣當局に對し内郷村及び湯本町に寄附してゐる妥協の盡力を依頼する事になつたのを明年度から前記の鑛産税だ。

夫婦會を開き

自力更生の希望交換

神谷村上片寄部落の試み

石城郡神谷村上片寄部落では二とする企ては珍らしく、その成十二日午後一時から中根農事實績の如何は大いに注目されてる。行組會長さんの宅で自力更生に。關する「夫婦會」といふものを開き自力更生、思想の普及、家長の決議で一千名の幽霊人夫を中心にの農家經營改善等の議題を中心にいろいろ懇談した外次のやうな家長より主婦へ對する希望、主婦より家長に對する希望事項を議決これを必ず實行する事に申合せをして散會したが夫婦會といふ様な団体の手で自力更生の實際的效果を擧げやうと試みた。

主婦より家長への注文。今迄の農家は家庭經濟なり農事經濟なり、經濟のとり方がだらしなかつたので家計はいつも當なしで不安だつた。今は家は家長は經濟的方面に最大の關心を持ち家計簿をつけて一家の財政状態を女子供にもよくわかるやうにして戴きた

平理髮組合

役員決定

平町理髮業組合では今回役員を左の如く決定した。△部長加藤卯之吉、副部長吉田浩吉、會計高木貞雄、幹事宮崎信一、白土武雄、根本辰尾。

四倉町で

藤井少佐講演

石城北部青年團並に北部在郷軍人分會、北部青年訓練生では聯合して主催となり来る三月十三日午後一時より四倉小学校講堂に於て若松歩兵二十九聯隊第二大隊長藤井少佐を以て國家非常時に關する講演會を開催する。

石城郡内

自力更生委員會

四倉校卒業生

縣主催石城郡内自力更生委員會は二十四日午前九時から平警察署會議室に開き縣から山口技手臨席し指示する處があつた。小學校八年度卒業生は尋常科二百五十一名、高等科七十名で六年間無欠者は尋常科二十三名、高等科七名であるが全校生徒數は尙千三百五十名で、内進歩賞を受ける生徒は四十五名である

古物商組合 役員改選

四倉町古物商組合總會は二十二日開催し役員を左の如く改選した。
顧問宮澤芳郎、組合長梅津梅吉、副組合長伊本春松、幹事鈴木金次、全小出喜平、全北郷清次郎、今高根澤友吉、新妻止勝、田中榮七、會計瀬谷友林

學齡兒童の母の會開催

四倉小學校では三月七日午後一時から地久節の日を下し昭和八年度入學兒童の母の會を開催する。

水産卒業生就職成績

四倉町水産商業學校卒業生は三十名であるが、就職は主として東京方面に開拓した結果成績優良である。

火傷して死亡

古銀治町製麵業水島卯之吉(六七)は去十五日午後十二時頃就寝中火をひつくり返へして全身に大火傷を負ひそれが因で二十一日午後死亡したので、警署では二十二日検死を行ったが、卯之吉は半身不随のため火をかよつた儘さうにもならなかつたらしい。

勿來町の小作争議

勿來町大高部落に約百戸中大半は過般米窮乏を理由に全然水田に施肥せず小作料の半減を地主に迫るべく申合せ目下それ

調印を取締り中であるといふ問題が起つてゐる。
大高部落は九分通り小作農で耕地田約百町歩を有してゐるが、昨秋水害並に虫害により小作料半減問題が惹起し未だに解決せぬ部分があり、更に従来も屢々斯る問題を繰返した結果である。
而して同耕地は昔日天領に屬し右のやうな意向を抱いてゐる様各農家共比較的少作料が低い上であるが、果して全小作人が地に種種な理由を附して半減乃至六分減等をなした例がある。早くいへば極めて少ない風習が行動を續けてゐるため一層成あつたので、この氣風が現在に行きに味を加へてゐるが、お残つてゐるため斯した問題を起すに及ぶたものと観られてゐるが一方部族民の一部には注がれるに至つた。

廣告

新任外科部長
外科學士 七來任
七月十一日より毎日診療ニ從事ス

内臓外科 醫學士 内木宗八
泌尿器科
昭和七年七月
平町新川町十九番地
外産婦人科 木村病院
電話一六四番

耳鼻咽喉科 專門
氣管食道科 專門
病室完備：自炊の便あり
平町町南 大和田醫院
電話一七〇番

製 造 大 ぼ ぼ 大
折 詰 法 出
平町一丁目
お惣菜用 さつま揚 吉原揚
電話一四一番

磐城名物... 糯米製
北海屋の
もちぢぢ
廿日より五日間二割引發賣致しますから
何卒多少に不拘御用命下さる様御願ひ致します
滋養豊富・味佳佳良ですから御病人の御見舞に最適
価格低廉・萬人の御口に適しますから一般家庭の御贈
答用に最適品。
平町字二丁目
北海屋製菓部
電話三八八番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九九番

耳鼻咽喉科 專問
平町田町七十番地
山内醫院
入院隨意 醫學士 山内亨吉
病室完備 電話六九一

タクシー界の寵兒
皆様の昭和!!
いつも新車にて御目見得
致します
倍舊の御最良の御聲援願ひます
平 驛 前
昭和タクシー
電話三四三番

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番
生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入、自然
營業では御座りません趣味で御相手致し度うございます
華道教授 天水庵 岡田華悦
平町仲町三